

日本ボストン会 会報

第49号



お花見の会
(椿山荘)



私のボストン、45年 初代会長: 吉野 耕一

私のボストン生活は1961年4月から始まった。大学の恩師の恩師が研究室を持つボストン郊外の空軍地球物理研究所へ真空紫外分光の研究の爲2年の留学要請があった。戦後わずか15年で空軍の研究室に躊躇したが、友人にボストン交響楽団があるとと言われて、渡米を決心した。通産省傘下の東京工業試験所に属していたので、外国留学は1年と規定されていたが、直属の部長の計らいで2年となった。63年に帰国、65年に再度空軍研究所へ帰ったが、76年6月に我々の属した研究室が閉鎖になった。幸い10年間使用した一切の実験器具と共に、76年10月ハーバード大学天文台 (Harvard-Smithsonian Center for Astrophysics, (CfA) へ移って、2006年3月で退職した。

渡米：

渡米が決まってから英国人教師の小人数の英会話教室に顔を出したが、実用的な話しが一切ないので、リングフォンレコードの米国版で毎日耳の勉強をして、非常に役に立った。銀行、郵便局での手つずきはぜんぶ自分でできた。1961年のボストンには日本人会がなかった。日本食料品店もなく、在住日本人は年末に車の相乗りでニューヨークまで正月用品の買い出しに行ったとか。Cambridgeのハーバード大学近くに下宿を探し、地下の台所で食事ができるので便利だった。10月に家内が生後3ヶ月の長女を抱いて参加、\$350の中古車も買い、アメリカ生活も軌道に乗った



吉野初代会長夫妻

吉野屋の義子さん：

1961年の秋Cambridge に古川義子さんが日本食料品店 吉野屋を開き、日本人の集会所のようにもなった。当時総領事館事務はNew Yorkまででかけていたが、総領事館事務の代行もなされていたとか、義子さんの葬儀の時に総領事館職員がのべられた。有名なBoston鮭の買い付けで成功した。最高級鮭を日本へ空輸して、鮭の値段が10倍以上にあがったのは残念だった。鮭の保存には急速冷凍が不可欠であると習ったのも古川さんからだった。8月の終わりに鮭を塊で買い、液体窒素での急速冷凍に成功し、秋の来客から好評を受けた。8月の終わりには訳があり、仕事に使う液体窒素の値段が、容器の月額使用料に比較して安いので、毎月末に容器内の液体窒素の量に関わらず、容器の返還が定められていた。返還する前に急速冷凍鮭を作るのに何も問題ありません。身寄りのない高齢の日本人女性の寄り合い場所になってきて、後に日本人会婦人部の憩いの場として発展した。憩いの場は吉野屋が無くなった現在も活動を続けている。吉野屋の発展と共に従業員の数も増え、次第に店の経営を支配人に任すことになった。信頼した複数の支配人に裏切られ、店の経営が急速に下り破産して吉野屋は姿を消した。住居、車等すべてを失った義子さんはCambridgeの小さいアパートに移っていた。品物を保管した倉庫を尋ねた際大動脈破損で急死された。葬儀はMt. Auburn Cemetery で行われた。参列者有志の吉野屋の思い出話の後、全員で“故郷”を歌って義子さんへのお別れは終わった。参列者のお香典で、葬儀一切からご遺骨を横浜の古川家の墓地に納骨まですべてを賄った。ちなみに吉野屋の後、寿屋も廃業して、今は日本人経営の日本食料品店は無い。

ボストン日本人会：

日本人会に直接関わったのは岩佐会長のもと、次期会長として役員会に参加した。その当時の大きい問題はReischauer邸の売却で、岩佐会長は日本人会での購入に動いた。歴史に残る記念建造物と望んでいた。結局は連絡をとった講談社が購入して、記念建築として、日本人スカラーの宿舎として使用された。この話と前後して講談社からの本の寄贈があり、日本語学校図書館が発足した。この件に関しては、近藤副会長の努力があった。91年度新年会は日本航空提供で三田明の歌で大変盛り上がり、岩佐会長の任期は終わった。私がセクレタリーをお願いしていた登三子さんが先に岩佐さんのセクレタリーになっていたので、引継ぎは簡単だった。

大阪の邦楽の福曜会が渡米して高齢者の慰問にと問い合わせがあった。Lexingtonの小学校を借り受けて自閉症の学校ボストン東スクールと共同して秋祭りを開催して、福曜会にも参加してい

NEXT EVENTS

奮ってご参加ください

総会

日時：11月27日(月)

午後6時開場

午後6時半開演

会場：NEC三田ハウス
芝クラブ

会費：5,000円(事前送金)

6,000円(当日払い)

5,000円(同伴者)

詳細：[HP](#)

申込・問合せ：[☎](#)

音楽の会

日時：10月21日(土)

午後2時会場

午後2時30分開演

会場：関幹事宅(田園調布)

演奏：建部佳世 (ピアノ)
建部欣司 (コントラ
バス)

会費：4,500円

(未成年者：3,500円)

詳細：[HP](#)

申込・問合せ：[☎](#)

紅葉狩りの会&ハイキング・山の会共催

日時：10月29日(日)-30日(月)

内容：アプトの道ハイキング
と霧積温泉散策

霧積温泉金湯館旧館泊

集合：10月29日午前11時

横川駅改札口前集合

詳細：[HP](#)

申込・問合せ：[☎](#)

ただいた。この企画は好評で3年連続して開かれた。福曜会は3年目にも参加された。経済的にもっともっと貢献したのは食堂で、現在四季レストランの宇田一家の努力で、毎年\$3,000程度の黒字だった。日本人会全員の参加であったが、主に働いのはご婦人でその努力がみのり、日本人会婦人部の発足とつながった。東スクールの先生方も積極的に参加され、自閉症の子供を相手にしているので、反応が鋭い普通の子供相手に楽しんでおられた。

会長就任間もなく、藤盛副会長が帰国される事になった。岩佐会長の頃、日本関連の建造物の修理の寄付を頼まれた事があった。当時日本人会では何も出来なかった。これが頭の中にあったので、藤盛さんに日本支部の発足をお願いした。その後日本語学校運営委員の土居さんの帰国の際藤盛さんへの応援を依頼した。これが日本ボストン会の発足なのは良く知られている。

45年の間には色々の事がありすぎ書き始めると終わらなくなってきた。紙面の都合もあるようで、ここで筆をおき、また続きを書く機会を待つ。

寄稿：On Teaching Japanese Culture to Japanese Students Michael E. Jamentz

I have taught Japanese language and literature at several Japanese universities over the years. Most of those who take my classes are foreign exchange students—a mix of Europeans, Americans, and East Asians, but a good number of Japanese also take these classes. When the students first look at me, they surely have some doubt as to whether I am qualified to teach these subjects. Many of you have met me and know what I look like, and like my students, perhaps you too have wondered about my fitness to lead such classes, saying to yourself, “how can someone who is obviously an outsider, teach students, especially Japanese students, about Japanese literature or culture?” Yes, I don’t look ‘Asian’ and certainly not stereotypically Japanese, but why do we make such assumptions based on appearance? In fact, I am Asian in the sense that my father was born in Asia, as was his father and mother. Many of my ancestors lived in Asia centuries before Japan was even born so my Asian roots are perhaps deeper than yours. Outward appearance is seldom a good guide by which to judge qualifications.

It is true, however, that I am not a Japanese citizen, but citizenship is no longer based on skin color or facial appearance in our modern world. I could very well be Japanese, and I always asked my students why they assume that I am not.

I believe I know some things about Japanese culture that

NEXT EVENTS 奮ってご参加ください

ゴルフの会

日時: 11月30日(木)

午前8時15分スタート

集合: 8時 1番ティー

場所: 川崎国際生田緑地

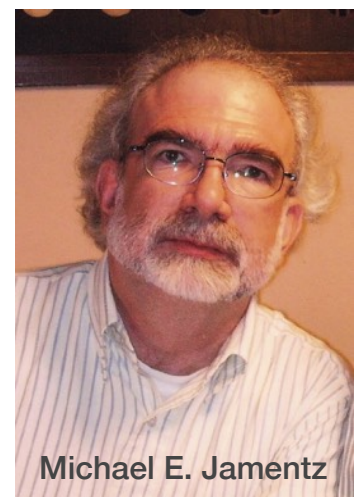
ゴルフ場

会費: 4,000円(賞品代及び

パーティー代)

詳細: [HP](#)

申込・問合せ: [E](#)



Michael E. Jamentz

very few Japanese know, but my expertise is very limited. I am extremely well versed in the 12th and 13th century Buddhist literature written in kanbun. I suppose only a handful of Japanese possess this sort of knowledge of Japanese language and culture. I understand well that Japanese universities and their students are not interested in my narrow specialty. So, indeed, it may be the case that I am unqualified to teach about Japanese culture and literature in general. Nonetheless, I am required to teach these subjects. I resort to my version of the Socratic method to compensate for a lack of ability to lecture on the entirety of Japanese culture.

I continually ask the students what is Japanese culture. I give them examples to help them shape and refine their understanding. One of my favorite cases is the year-end tradition of a 10,000-member choir singing the “Ode to Joy” 歓喜の歌 from Beethoven’s ベートーヴェン9th Symphony 交響曲第9番. People seldom think of this type of performance as Japanese culture. Most would probably say kabuki, or tea ceremony, and nowadays manga and anime if asked for an example of Japanese culture. Yet, more Japanese people perform Beethoven on an annual basis than nō 能 (which by the way we also study in class). If thousands of Japanese regularly practice an art, how can that art be excluded from the category of Japanese culture? If you object that Beethoven was not Japanese, then you would also have to exclude a great deal of Japanese culture that originated in China and Korea—Zen Buddhism, chopsticks, calligraphy, incense etc. Many, if not most, “Japanese” arts have foreign roots or were profoundly influenced by foreign culture.

I often focus on the visual arts because I feel they are a key to understanding Japanese culture, and I am fascinated (and sometimes repelled) by several modern Japanese artists. I always discuss Murakami Takashi 村上隆 with my students. Murakami’s art and ideas are extremely provocative. Lately, the work of Kusama Yayoi 草間弥生 and Kawakubo Rei 川久保玲 have attracted much attention abroad and I challenge the students to try to identify a Japanese quality in their creations. A perennial question on the final exam of my Japanese culture course asks students to consider whether Van Gogh’s ファン・ゴッホ Sunflowers ひまわり could someday be designated a National Treasure as paintings of another foreign artist, Mokkei (Muqi) 牧溪, have been in the past. There is no correct answer to such a question, but in attempting to answer it, students must reflect on the boundaries of Japanese culture and then explain the reasoning behind their acceptance or rejection of Sunflowers.



Each semester, I learn much from the students as we invariably encounter new aspects of Japanese culture. Last year it was yosakoi よさこい dance groups and funerals for the Aibo アイボ pet robots. These explorations make teaching such a class particularly rewarding. I feel that my understanding of Japanese culture has grown wider and deeper with each passing year thanks to these classes and the students enrolled in them.

寄稿：ホームコンサートのこと 関 尚子

かつて夫は、祖父が遺した壊れたバイオリンを少しずつ自分で修理し、趣味で弾くことを楽しんでいました。夫の実家では、西洋音楽がいつも身近にあったようです。何年か前、祖父（寺田寅彦）の家での事件を題材にした劇団青年座による芝居で、トリオを家族で練習している場面がありました。

私のホームコンサートとの出会いは、ニューヨーク市立大学ラーチモント校でウォルター・ラインホルト教授の西洋音楽と建築、絵画、また交響曲の分析を3期に分けて受講していた際に、ピアニスト中村菊子先生のNYのお宅でのホームコンサートとディナーへのお誘いがあった時です。当時ジュリアード音楽院で修行中の小川典子さん、大竹のり子さん、熊本マリさん等のピアノ演奏を、ディナーの後に聴くという会でした。今や素晴らしい活躍されている方々の、若い活気に満ちた演奏を大いに楽しみました。また帰国後、モーツァルト協会の方のお宅で行われた、ボストン・ポップス・エスプラナード・オーケストラのメンバーとのパーティーに招かれました。その時、ボストン・ポップスの何名かの方に日本ボストン会での演奏をお願いしてみました。その結果、有志メンバーが快く引き受けてくださり、日本ボストン会のためにボストン・ポップス・ミニ・コンサートをNEC芝クラブで2年続けて催すことができました。その後、スポンサーが見つからなかったために、来日公演が中止されたのは残念なことでした。



私自身、新人演奏会にバイオリニストとして出演した後、家庭に入りましたが、赴任先のシドニーにおいてコンセルバトワール音楽院の客員教授に師事し、その際、セキ・カルテットを編成していただき、また小編成のオーケストラで独奏もさせていただきました。ニューヨークではジュリアード音楽院の教授に師事することができ、帰国後、年に一回、仲間とデュオとトリオの演奏会をイギリス館や大倉山ホールで、数年続けておりました。しかし大倉山ホールへの坂道を登るのが苦になり、自宅でコンサートをと考え、演奏会ができるスペースを設けました。

ボストン・ポップスの来日が期待でしなくなりましたので、ボストンで研鑽を積んだ若い演奏家の方々を日本ボストン会の皆様にご紹介できればと、自宅で演奏会を催すことにしました。若い方々は勉強熱心で、いつも感心しています。また日本ボストン会の方々も応援していただき、現在に至っております。



私が大学を卒業する時、当時のチェコスロバキアの教授が、家に入っても音楽は続けられるよ、と助言して下さったことが、音楽を続ける力になっております。様々な方との出会いがホームコンサートに導いてくれました。6歳からバイオリンを習い、十年、ホームコンサートを通して音楽と共にいられることを幸せと感じています。前述の夫のバイオリンは現在、高知県立文学館に展示されています。毎日騒音を出す私を見て、夫はバイオリンを弾くのを止めてしまいました。

WG活動（2017年秋春～2017年夏）

2017年（平成7年）

4月1日

お花見の会（神田川-江戸川公園）

4月27日

ゴルフの会（春季コンペ-川崎国際生田緑地GC）

5月10日・11日

美術と歴史の会（山口先生（当会会員：埼玉大学名誉教授と巡る奈良1泊旅行））

5月28日

音楽の会（第11回ホームコンサート）

ワーキンググループ活動報告

お花見の会報告

林 泰紀

4月1日の土曜日、16名のメンバーで有楽町線の江戸川橋駅に集合して今年のお花見の会を行いました。3月下旬の寒さもあって満開には少し早く、5分咲きから7分咲きといったところでしたが、人混みもなく、ゆっくりと川沿いの桜を眺めながら散策することができました。

井之頭公園を源流として東京都を横断する神田川界隈の地理歴史についても、事前に幹事の小野田様、生田様から説明文のご連絡をいただき、見聞を広げながらお花見を満喫することができました。途中、椿山荘、旧細川家庭園にも立ち寄り、桜だけでなく春の草花がきれいでした。

昼食はミシュランでも取り上げられたイタリアンで、美味しいワインとコース料理を堪能。花見を終えた翌日には早速、桜を含むスナップ写真を土居様からネット掲示して頂き、至れり尽くせりのボストン会のはじめてのお花見でした。



ゴルフの会

山崎恒

ボストン会春季ゴルフ懇親会は、4月27日川崎国際生田緑地ゴルフ場で、9名が参加して行われました。吉田博さんが、優勝されました。

次回は11月に開催予定です。

美術と歴史の会 - 奈良紀行

三好 彰

5月10日と11日に奈良の史跡を巡った。昨年の総会で山口静一会員から提案があり、奈良在住の吉田礼子会員と京都在住のジャメンツ会員夫妻から懇切なご支援を得て実現できた。

10日の昼食後にJR奈良駅から三条通を歩き始めた。山口会



員の案内で最初に浄教寺を訪問した。明治初年にお抱え外人教師であったフェノロサは荒廃していた奈良の諸寺を憂い、「奈良の古物は日本の宝ばかりでなく世界の宝である。これらを奈良の人が護るべきであり、それは大いなる荣誉でもある。」と浄教寺の本堂で熱弁をふるった。これが奈良の誇る世界遺産の原点であると前任職の島田和磨師から伺った。

次に奈良国立博物館で開催中の特別展「快慶 日本人を魅了した仏のかたち」を鑑賞した。ジャメンツ会員は中世仏教が専門であり、この特別展に尽力された。展示品の中にボストン美術館からの里帰りした弥勒菩薩立像があった。ボストン会にとっても喜ばしい里帰りだった。



11日は貸し切りバスを利用した。最初に法隆寺を拝観した。山口会員から、「フェノロサが寺の反対を押し切って夢殿の扉を開けさせた。そして幾重にも撒かれてあった布を外すと救世観音像が現れ出た」という秘話を伺った。現在では一定期間だけ公開されるが今日は幸いにも見る事ができた。宝物を展示する大宝蔵院で、教科書で覚えた夢違観音、玉虫厨子、百済観音などに気もそぞろとなった。隣接の中宮寺で弥勒菩薩半跏思惟像の涼やかなお姿を拝した。

午後はまず法輪寺に詣でた。飛鳥時代に遡る屈指の古刹でありご住職（尼僧）から諸仏の詳しい説明を受けた。

西ノ京に移動し薬師寺と唐招提寺を拝観した。両寺とも長年にわたる工事がほぼ終わり寺全体に落ち着きが見られた。国宝の諸堂に国宝の諸仏がふさわしかった。

専門家の山口会員、ジャメンツ会員のご指導を得て実り多い旅になった。

音楽の会- 第11回ホームコンサート 関 直彦・尚子

新緑鮮やかな5月28日（日）、39名の参加を得て、第11回クラシック・ホームコンサートを関幹事宅で開催。2009年に始まったホームコンサートは、ジャズも含めると14回目となりました。

今回は、ピアニスト兼作曲家の戸口純氏に演奏をお願いしました。同氏は20年ほどボストンを中心に日米欧で活躍してきて、昨年、本拠を東京に移したばかり。また当会の歌う会のリーダー、酒巻則子さんのソプラノも客演として加わり、コンサートを盛上げました。酒巻さんはかつてボストンで修行中、戸口氏に伴奏をお願いしていました。



戸口氏の演奏は超絶技巧を駆使した見事に迫力のある演奏で、聴衆を魅了しました。自作の曲も素晴らしい才能を示すもので、今後の活躍が大いに期待されます。また聴衆から提案を受けた歌をモーツァルト風、ドビッシュー風、フーガ風、ジャズ風などに即興で見事にアレンジし、会場を沸かせました。同氏はこの日をもって当会に入会しました。今後の活躍が大いに期待でき、会員皆さんの絶大なる応援をお願いします。

演奏が終わってからのビュッフェスタイルの懇親会、天気にも恵まれて、皆さんに歓談を楽しんでいただきました。

ボストンだより (1)

八代 江津子

ボストンからのお便り、どのように進めていこうかと考えあぐね、まずは私の周りのことから書かせていただくことに致しました。

まず第一弾は「暮らし・食べ物」から。

私の住むコンコードは、ボストンの中心から車で三十分ほどの郊外独立戦争が行われ若草物語の姉妹が住んでいた家もある小さな町です。自宅はソローの「森の生活」で紹介されている、Walden Pondから徒歩で十分、Walden Woods、日本語訳で「ソローの森」の中にあります。鹿やワイルドターキーが走り回り、時には警察からの緊急連絡網で、「クマが見かけられたので注意するように!」。そんな自然の中で、日本恋しさに、ニラ、小松菜、シソ、山椒、ミョウガ、タラの木（どうしてもタラの芽の天ぷらが食べたくて）、野沢菜（漬物欲しき）、梅の木、柚子の木を育て、日本食材にかじりついています。

最近、日系スーパーマーケットもすっかり減り、「えびすや」一件を残すのみとなったボストン。その一件もメッドフォードの日本語学校の近く、という立地です。

ボストンに住む学生や研究者、そして車を持たない日本人はセントラル駅にある“Hマート”という韓国系マーケットに頼っているようです。そのマーケットの品揃いを見るのも今の流れを垣間見ることができて楽しいひと時です。

冷凍餃子が30種類。これからは冷凍餃子の時代なのでしょうか。つい、餃子バーでもやってみようかしら、と考えてしまいます。マーケット入り口にはカレー店、ラーメン店、韓国資本のフランスパン、ケーキ店などが出店。韓国出資でありながら本場フランスを感じさせるこの店の本気度、そして店舗展開の面白さに感服してしまいます。

日本の大型食品店舗進出、なかなか負けている様子。そんな中、ボストンでもニューヨークに負けず、ラーメン戦争が始まっています。有名系列店が軒並み出店、地元店も寿司からラーメンに変わるところも見られるようになりました。日本、京都からの出店「夢を語れ」というラーメン店は、毎日常に二十人ほどが並ぶ、行列のできる店として新聞でも取り上げられました。それ以降、どのラーメン店も軒並み人が並ぶようになるという効果。今ホットです。

日本の焼肉店「牛角」もブルックラインに出店し賑わい、2店舗目をハーバードスクエアに展開しました。こちらも予約なしでは入れない人気店となっています。

日本食に対するイメージはますますアップし、韓国料理レストランでも日本食と謳えば収入倍増とばかりにエセ日本食も増えている状況。

しかし、移民政策なののでしょうか、日本の海外進出の苦手さなのでしょうか、日本人による日本食展開は思う様に行か無いようです。今後日本の食品、レストランが増え、アメリカに住む人々に私たちの愛する日本の味を体験してもらいたいものです。

私もボストンで美味しい日本の食事がいただきたい! 今日庭の小松菜で煮浸しを作って我慢。日本への帰国、私の舌が待ち焦がれています。



日本ボストン会事務局



〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談

をさせた頂きたく、事務局までご連絡ください。連絡先: 